

2025年度関西大学対抗テニスリーグ戦

一般注意事項

※青字は去年からの改訂点	2
1.試合を行うにあたり	2
1-1.リーグ戦の形式及び試合形式	2
1-2.ボールについて	3
1-3.審判の形式について	3
1-4. メディカルタイムアウト(MTO)・メディカルトリートメント(MT)	4
(1) メディカルタイムアウト(MTO)	4
(2) メディカルトリートメント(MT)	4
(3) MTOとMT、トイレットブレイクの併用について	5
1-5.ヒートルールについて	5
1-6.トイレットブレイクについて	6
1-7.アップについて	6
雨天等で中断した場合	6
オンコートアップについて(2～5部)	7
1-8.レストの時間について	7
1-9.その他	7
日没の順延の検討	7
2. バイオレーション	7
2-1.タイムバイオレーション	8
2-2.コードバイオレーション(ルールブックP140参照)	8
2-3. ヒンダランスについて	9
2-4. 服装について	9
3. オーダーについて	10
3-1.オーダー交換のやり方	10
3-2.オーダー、オーダー用紙のミスへのペナルティについて	11
(1) オーダー規約に基づかない順位で発表されたオーダーに関して	11
(2) 記入ミスについて	11
(3) オーダー交換時にオーダー用紙が不足している場合、またはない場合	11
(4) オーダー交換時に出場選手がサービスラインに整列していない場合	11
(5) チームの代表者(主将)がサービスラインに並んでいない場合	11

(6)オーダー交換時に部員全員が遅刻した場合	12
3-3.オーダーに関する注意事項	12
①オーダー用紙に関する注意	12
②オーダー交換時の注意	12
3-4.オーダー順位	13
4.選手以外の注意事項	13
4-1.ベンチコーチ	13
ベンチコーチに対するバイオレーション	14
4-2.質疑権所有者	15
1. 学連が会場で運営を行っている場合(1部リーグ、全ての入れ替え戦)	15
2. 学連による会場運営が行われていない場合	15
4-3.応援	15
応援に対するコードバイオレーション	16
4-4.物資の供給	16
5.その他	17
5-1.結果報告用紙について	17

※青字は去年からの改訂箇所

1.試合を行うにあたり

1-1.リーグ戦の形式及び試合形式

男子・女子1部から4部は各部6校により総当たりリーグ戦を行い、その後入れ替え戦を行う。5部はリーグ戦、その後各ブロック上位2校によるトーナメント方式。

男子5部については、A～Dブロックをそれぞれ4校(Dブロックは3校)とし、前年度の1位・2位をそれぞれA,Bブロックに配置し、それ以外の枠は残りの大学で抽選(前年度の戦績は考慮しない)して行う。決勝トーナメントは、A,Bブロック1位の学校にシードを付与し、計4校で抽選により行う。

女子5部については、A,Bブロックをそれぞれ4校とし、前年度の1位・2位をそれぞれA,Bブロックに配置し、それ以外の枠は残りの大学で抽選(前年度の戦績は考慮しない)して行う。決勝トーナメントは、A,Bブロック1位の学校の直接対決により、順位を決定する。

リーグ戦において勝ち点が並んだ場合は以下に従って順位を決定する。

- ①2チームが同率になった場合…直接対決の結果で順位を決定する。
- ②3チームが同率になった場合…(1)総勝利試合数、(2)取得セット率、(3)取得ゲーム率の順で順位を決定する。(1)～(3)の過程で残り2チームになったら、①で決定する。

入れ替え戦については、リーグ戦の後、上部6位対下部1位、上部5位対下部2位で入れ替え

戦を行う。

なお、1部リーグの上位2校をもって大学王座出場大学とする。

試合ポイント数は男子9(複3・単6)、女子5(複2・単3)とし、単はベストオブ3タイブレークセットマッチ、複は2タイブレークセットファイナル10ポイントマッチタイブレークとする。試合は原則オーダー順位の低い試合から行う。また、複数コートに同時に試合が入る場合は、オーダー順位の高い試合からコート番号の若番に割り振ること。リーグ戦では勝敗が決定しても打ち切りは行わない。ただし、5部決勝トーナメント、入替戦は勝敗が決定した場合、打ち切るものとする。

出場資格は関西学生テニス連盟登録選手かつ登録年数・在学年数が共に4年以内の者とする。ただし、医学部や薬学部に属する者は登録年数・在学年数が共に6年以内の者とする。

そして、その上に「選手資格一覧」に掲載された選手のみ出場できる。

1-2.ボールについて

使用ボールはDUNROP FORTとし、

1部は単複ともに9・11(タイブレークが始まる時にはボールチェンジをせず、次のセットの第2ゲーム前までそれを遅らせる)の2球回しとする。2部以下は、単はファイナルセットチェンジ、複は4球回しで行うこととする。また、タイブレークは1ゲーム分として換算し、ロストに対しては、当該ゲーム数に応じてニューボール、もしくはユーズドボールを紛失した個数分だけ補充する。(ルールブック:P.46 Q9参照)

1-3.審判の形式について

審判形式はソロチェアアンパイア(SCU)とする。しかし、片方の学校の人員が足りておらず相手校の人員が余っている場合、余っている学校が審判に入る。両校人員が足りていない場合は、セルフジャッジとする。

2～5部において、SCUが目にも余るほど自校の有利になるように進めていたり、SCUとしての振る舞いが著しく出来ていない場合は、同校の別の部員に限って入れ替えることが出来る。変更する場合は質疑権所有者が学連に電話でその旨を伝えること。

1-4. メディカルタイムアウト(MTO)・メディカルトリートメント(MT)

メディカルルールの運用に当たり、1部では原則的にオフィシャルトレーナーを用意しているため、それ以外の者が診察や治療に参加することは出来ない。オフィシャルトレーナー不在の場合、事前にトレーナー登録をした者に限り、治療に参加できる。2部以下では予めトレーナーとして登録された者のみ選手の治療に参加することが出来る。治療時間はSCUが計測するものとする。

(1) メディカルタイムアウト(MTO)

試合中(ウォームアップを含む)の怪我や体調不良のため、トレーナーの応急手当が必要な場合、トレーナーを要求することができる。

原則として、次のエンド交代時(ファーストゲーム終了後、タイブレーク中を除く)、セットブレーク時にメディカルタイムアウト(MTO)をとることができる。緊急を要する場合には直ちにMTOをとることができる。

MTOはトレーナー又はドクターの診察が終了し、実際に手当を開始した時に始まる。状況によっては、コート外でMTOが取れる。MTOは原則として3分を超えてはならない。ただし、出血の場合は5分まで延長することが出来る。

1部位の症状につき1回のMTOが取れる。熱中症に関する症状は、1試合につき1人1回だけMTOが取れる。怪我の症状が他の部位にも影響して発症した場合は、(同時に2カ所以上で発症した怪我でも、関連性があるもので原因が一つと判断されれば)全体として一つの怪我とみなされる。同時に2カ所以上に怪我を負った場合は、あるいは体調が悪くなって同時に怪我もした場合は、レフェリーの許可を得れば、2回続けてMTOを取れる。ただし、トレーナーは2回連続のMTOを取るかどうかを1度の診察で判断しなければならない。

筋痙攣の場合は、選手はエンド交代時又はセットブレークの時間内に限り処置を受けることができる。筋痙攣の処置でMTOは与えられない。ただし、学生トレーナーしかいない試合(主に2～5部・入替戦)では、体力的な問題による筋けいれんなのか、熱中症による筋けいれんのか判断できないため、全て熱中症によるものとみなし、一度だけMTOを取ることを認める。

SCUは、MTO終了時に即座にタイムをかけることとする。

(2) メディカルトリートメント(MT)

選手はエンド交代時(90秒)、セットブレイク(120秒)の時間内に手当を受けたり、ドクターから医薬品を受け取ったりできる。MTは1試合につき部位にかかわらず2回までであればMTOの前でも後でも取ることができ、その2回は連続するエンド交代時でなくても良い。ただし、手当のできない症状の場合には、MTは適用されない。

(3) MTOとMT、トイレットブレイクの併用について

MTO、MT、トイレットブレイクに関しては、一回のエンドチェンジもしくはセットブレイク時にどれか一つのみを選択するものとする。(トイレットブレイクはセットチェンジ時のみ)

Aチームがセットブレイク時にMTOもしくはトイレットブレイクを取り、BチームがMTを取ったとする。この際に、AチームのMTOもしくはトイレットブレイクがMTの時間内に終わらなかったとしても、BチームのMTがAチームのMTOまたはトイレットブレイクに合わせて処置時間が延長されることはない。

1-5. ヒートルールについて

会場での気温が34度以上になった場合、または開催地のWBGTが30.1度以上になった場合は、シングルの最終セットの前に10分間のコート外での休憩(セットブレイクの120秒を含む)が認められる。この休憩では、トイレ(トイレットブレイクに含まれない)、着替えはできるが、ベンチコーチ以外からのコーチングは受けることができない。

10分間の休憩の後、試合の再開に遅れた場合はタイムバイオレーションが連続で科される。

会場での気温が40.1度以上になった場合、または開催地のWBGTが32.2度以上になった場合は、試合の中断及び開始の遅延を検討する。進行中の試合を中断する場合は、セット終了時とし、開始前の試合についてはこの基準が下回るまで開始を遅らせる。

気温を測る時間は、試合開始の30分前、原則開始以降は2時間毎である。

1部についてはトレーナー及びレフェリーが気温の測定を行う。2～5部についてはホーム校が温度測定方法(温度計を用いるのか、どのアプリを参考にするのか等)を決め、それを相手校の主将主務または質疑権所有者に試合開始までに伝える。気温が上記の水準を上回った場合には、相手校の主将主務または質疑権所有者の確認を得てはじめて、ヒートルールが適用される。[WBGT確認先の例](#)(環境省 熱中症予防サイト)

1-6.トイレトブ레이크について

トイレトブ레이크にはコートレフェリーがついていく。学連がない試合の場合、選手の相手校のSCUあるいは質疑権所有者がついていき、外部からのコーチングなどがないかどうか確認する。

男子

1試合につきシングルス1回、ダブルス1組1回、トイレまたは着替えを理由に原則としてセットブ레이크時に原則トイレに入ってから3分間でとることができる。

女子

1試合につきシングルス1回、ダブルス1組2回、トイレまたは着替えを理由に原則としてセットブ레이크時に原則トイレに入ってから3分間でとることができる。

注意点

- ・必ずベンチに座る前にSCUに申し出る。
- ・10ポイントマッチタイブ레이크前も認める。
- ・ペア2人が同時にトイレトブ레이크を取った場合、1回とカウントする。
- ・ウォームアップ中も試合中と同様、回数に数える。
- ・トイレトブ레이크終了後の余りの時間はレストとして使用できない。
- ・本当に緊急の場合にはその選手のサービスゲームの前に緊急トイレトブ레이크を認める。
- ・認められた回数のトイレトブ레이크を使ってしまった後にトイレに行く場合は、ポイント間25秒、エンドチェンジの90秒、セット間の120秒を使うことになる。この時間を超過した場合は、コードバイオレーションが課される。

ベンチコーチ

ベンチコーチは選手と共にトイレに行くことができる。ベンチコーチのみのトイレトブ레이크については、回数制限を設けないが必ず相手校のSCU、あるいは質疑権所有者がついていくこと。

選手のトイレトブ레이크中におけるベンチコーチのコーチングは警告の対象とはしないが、トイレトブ레이크中に観客等の第三者と話した場合はベンチコーチに戻ることはできない。また、その後の当該試合のベンチコーチの補充もできない。

1-7.アップについて

雨天等で中断した場合

雨天等で中断した場合、中断してから再開するまでの時間が

15分未満:アップなし

15分以上30分未満:3分アップ

30分以上:5分アップ

とする。SCUが中断時間と再開時刻を把握しておくこと。

オンコートアップについて(2～5部)

オンコートアップとは、コート内でラケットを使用しないアップのことである。ただし素振りを除く。オンコートアップを行うのであれば、両校で話し合っておんコートアップの時間を決める。ただし、試合開始時刻10時に影響が出ないようにすること。オンコートアップを行わない場合、プラクティス時間以外のオンコートアップは、禁止。

1-8.レストの時間について

レストの時間はダブルスからシングルスを行う為、以下の通り定める。レストの時間はシングルスの試合の有無に関わらず、ダブルスを行った選手全員に確認すること。

試合時間 90分未満 :60分

90分以上 :80分

雨天等により中断した場合、15分未満の中断は開始時刻から終了時刻までの時間を、15分以上の中断では再開時刻から終了時刻までの時間を「試合時間」として計算する。

1-9.その他

雷での対応について

雷雨が接近している場合は、試合を中断することができる。稲妻が目撃されてから30秒以内に雷鳴が聞こえたら雷が接近しているので、会場にいる全員が安全な場所に避難すべきである。最後の稲光が目撃されてから30分経過し、最後の雷鳴を聞いてから30分経過するまでは試合を再開するべきでない。(ルールブックの通り)

日没の順延の検討

ナイターの設備がない会場では、17時を超え、どちらかの選手がボールが見えないと主張した場合、順延を認める。順延する場合は、セットが終わったときか、セット中なら偶数ゲームが終わったときに行う。中断後、試合を再開するときには、中断したときのスコアやその時プレイヤー・チームなどがいたエンドなどはそのまま継続する。また、使用していたボールもホーム校がしっかりと管理すること。

2. バイオレーション

ルールは、「JTAテニスルールブック2025」テニス規約に基づき、コードはJTAルールに基づく。

2-1. タイムバイオレーション

1回目 警告

2回目以降 サーバーはフォールトが科される

レシーバーはポイントペナルティが科される

ポイント間(アウトオブプレーから1stサーブを打つまで)の25秒、エンドチェンジ間の90秒、セット間の120秒などの決められた時間を、不注意により超えてしまう場合に課される。

「レッツプレイ」といったコールせずとも時間を超えた時点で、審判の「タイムバイオレーション、ウォーニング、A選手」(例: 1回目の場合)というコールでバイオレーションが課される。

また、各セット第一ゲーム終了時にベンチに座ることがあるが、これにはタイムバイオレーションを適用することとする。

2-2. コードバイオレーション

1回目 警告

2回目 1ポイント失う

3回目以降 その都度1ゲーム失う

8) ゲームの遅延

以下の場合、ゲームの遅延としてコードバイオレーションが課される。

- ・タイムバイオレーションが課された後、25秒以内にプレーを開始しない。
- ・MTO終了後、30秒以内にプレーしない。
- ・ラケットを取りに行くなどでコートを離れ、規定の時間内に戻ってこない場合。
- ・手当を受けられない症状(主に筋けいれん)で規定時間内にプレーができない場合。

その他、特に起こりやすいものとして

10) ボールの乱用,

11) ラケットや用具の乱用

12) 言葉による侮辱

17) スポーツマンシップに反する行為

がある。各自ルールブックを参照して確認しておくこと。

2-3. ヒンダランスについて

プレー中にチーム(プレーヤー・応援)が故意に、又は不本意に相手を妨害する行為を行った場合にコールする。

故意は1回目から失点、不本意はレット。2回目以降は失点。ただし、妨害を認識しながら意識的にプレーを続行した場合は妨害とみなされない。(ポイントは無効)

故意にあたるものとして、インプレー中に応援が声を出す、ベンチコーチが声を出す、選手が「カモン」等の声で相手のプレーを妨害することがある。

不本意にあたるものとしては、ボールや帽子といった持ち物を落としたときがある。

コート外からの妨害に対するヒンダランスはSCUまたはコートレフェリーがとることとする。あまりにも悪質な場合は、両校の質疑権同士で話し合い、SCUまたはコートレフェリーに申告する。申告時、直ちに注意喚起を行い、それ以降も同じ状況が続くようであれば、故意のヒンダランスとなる。

上記以外の応援がコールすることは認めない。上記以外の応援がヒンダランスを指摘して選手がプレーを止めた場合は、故意による妨害とみなされ失点となる。

また、コート外からの応援による妨害は応援に対するコードバイオレーションも取り、インプレー中にベンチコーチが立ち上がった場合はベンチコーチに対するコードバイオレーションも課す。

2-4. 服装について

違反した場合は直ちに服装を正す、あるいは正しい服装に交換すること

服装違反が、オーダー交換時に起こった場合には全試合に応援に対するコードバイオレーションを、試合開始以降に起こった場合には該当選手にコードバイオレーションを課す

【服装に関するルール】

ロゴは「JTAテニスルールブック」に基づき、違反ロゴに対するテープの使用は認めない。大学名のコマーシャルロゴについては団体戦のみ大きさの規定はない。

オーダー交換時

ゲームウェアまたはウォームアップスーツを着用しなければならない。ウォームアップスーツのチャックは上まで締め切っておく。(Tシャツ等を着用していても良いが、中に着ている物が見えないようにする)

オーダー交換時、トレーナー・スウェット類を着用してはならない

(注) 審判・ボーラー・ベンチコーチの服装は常識の範囲内で自由とする

試合前のプラクティス及び試合時

色の指定はないがゲームウェアとする。プラクティスの際はウォームアップスーツの着用も可とする。

試合中のベスト、セーター、カーディガンの着用は認めるが、ウォームアップウェア、トレーナー、スマートウォッチ(電源を切った状態でも)の着用は認めない。手持ちの扇風機やマッサージガンの持ち込みや使用は認めるが、それ以外の電子機器の持ち込みや使用は認めない。

また、トレーナーさんの要望(MTO時に施術が不可なため)により **1部のみ**インナー(コンプレッションウェア)の着用は禁止していたが、着用すること自体は禁止しない。だが、着用する際は、MTO時に、マッサージクリームやテーピング等の施術を受けることが不可であることを理解した上で着用するものとする。

サポーターやアームカバーはインナーには含まれない。

出場選手以外のインナー着用は可とする。(SCU、ボーラー、応援、ベンチコーチ等)

3. オーダーについて

3-1. オーダー交換のやり方

オーダー交換開始前に、両校の代表者で時報を合わせておく。(合わせていなかった場合、整列時に、相手校が遅れていても、ペナルティは科されない。)

オーダー開始時に、オーダー用紙を、**1部リーグ戦及び1部2部入れ替え戦**では学連提出用と相手校提出用の**2枚**を用意し整列する。両校主将挨拶時に、相手校用を相手校主将に、学連提出用をその場で式次第を行っている学連に提出する(学連提出用を大会本部に提出することがないように)。

2～5部リーグ及び2部～5部入れ替え戦では相手校提出用の**1枚**を用意し、整列する。

単複分けてオーダー交換を2回行う。シングルのオーダー交換は、ダブルスが全試合終了後直ちに行う。ただし、シングルのオーダー交換の際に、オーダーの書き直しを行う場合は、相手がコート内に整列する前に、コートレフェリー及び、相手校の質疑権所有者に伝え、10分以内に、シングルのオーダー交換の時間を遅らせることが可能である。

なお、コート申請時間等の特別な事情を除き、試合開始時刻は2～5部も1部と同様に10時試合開始とする。

3-2. オーダー、オーダー用紙のミスへのペナルティについて

(1) オーダー規約に基づかない順位で発表されたオーダーに関して

その誤りのあった対戦を没収(単複どちらのオーダー交換時も共通)とする。

例) 本来、A・B・Cの順で固定であったオーダーを、誤ってA・C・Bの順で提出し相手校に提訴された場合

→C・Bの試合を没収、提出した大学側の2敗となる

オーダー規約違反に関しての提訴は、複・単共にその試合の終了までとする。主将・主務・質疑権所有者以外からの提訴は受け付けない。

(2) 記入ミスについて

例)部印がない、氏名・大学名の漢字が間違っている場合など(違う大学名が書いているなどは除く)

→特に罰則はない

※オーダー用紙に名前がフルネームで記載されていない場合

→トス権を失う(エンドとサブ・レシーブ両方)

(3) オーダー交換時にオーダー用紙が不足している場合、またはない場合

例) 1部、1部2部入れ替え戦:学連提出用、相手校提出用オーダーのどちらかがない、またはどちらもない場合

→そのオーダー交換における該当試合をすべて没収とする。

オーダー用紙を忘れた場合 → オーダー用紙ではなくてもよいので、オーダー交換の時間までに別の紙に部印を押して、その場で作成してもよい。

(4) オーダー交換時に出場選手がサービスラインに整列していない場合

→該当選手は1ゲームとトス権を失う(試合出場選手が式次第を行っても良い)。

(5) チームの代表者(主将)がサービスラインに並んでいない場合

→全試合没収

チーム代表について主将以外の選手が代表者となる場合、学連にオーダー交換開始までにその旨を連絡すること。

(6) オーダー交換時に部員全員が遅刻した場合

→全試合没収

3-3.オーダーに関する注意事項

①オーダー用紙に関する注意

・学連指定のオーダー用紙に従って、組・選手名を記入。この際ダブルスについても、フルネームで記入すること。

- ・オーダー用紙・封筒には部印を押すこと
- ・オーダー用紙の訂正箇所にはチームの代表者の印を押すこと。オーダー交換成立後の変更は一切認めない。

②オーダー交換時の注意

- ・チームの代表者及び出場選手は必ずオーダー交換に出席すること。
- ・チームの代表者と出場選手はサーブラインに整列し、その他の部員はベースラインに整列する。

(注)試合当日もチーム代表者(主将、主務)、部の印鑑を必ず持参すること。

3-4.オーダー順位

オーダー規約に基づき、各大学から提出していただきHPに掲載された「選手資格一覧」の確定版をもとにする。シングルスは「選手資格一覧」の確定版の項目番号が小さい順に上位番手とする。ダブルスは、ペアの項目番号の和が小さいペアから上位番手とする。同順位またはペアの合計が同率の場合、選手の入れ替えは自由とする。また、既定の団体戦本数に対して、選手数が不足している場合は、必ずオーダー順位の上位から選手を割り振ること。(不足していることを事前に相手校へ伝える必要は無い)

なお、「選手資格一覧」に掲載されていない選手は出場することができない。また、初回の提出期限9/2(火)を超えて、選手の追加はできない。「選手資格一覧」に掲載する人数に制限はない。

オーダー規約とは、2024年度インカレ室内から2025年度インカレまでの最高戦績をもとにしたものである。

各対戦の前日正午時点に掲載されている「選手資格一覧」を確定版とする。ただし、訂正期限までにもらった訂正を各大学が行っていない場合を除く。

もし、「選手資格一覧」の確定版の各選手の項目番号にオーダー規約とは異なる誤りがあったとしても、その対戦が終わるまでは訂正を行わない。

選手資格一覧の提出期限は9/2(火)とする。この期限に遅れた場合、全試合全対戦に応援に対するコードバイオレーションを与える。ただし、いただいたデータをHPに反映するのに時間がかか

るため、他校の提出可否に対する質疑は認めない。

初回の誤り指摘の期限は5部を9/4(木)正午とし、それ以外の部については9/5(金)正午とする。
これ以降の誤り指摘の期限については、各対戦の前々日の正午とする。

誤りがあった大学は、各対戦の前日の正午までに訂正を行うこと。この訂正期限に遅れた場合、
次対戦全試合に応援に対するコードバイオレーションを与える。ただし、いただいたデータをHPに
反映するのに時間がかかるため、他校の提出可否に対する質疑は認めない。

4.選手以外の注意事項

4-1.ベンチコーチ

エンドチェンジ間の90秒、セットブレイク時の120秒間にベンチコーチから選手はコーチングを受けることができる。各セット1ゲーム終了後、またタイブレイク時のエンドチェンジ間ではコーチングをしてはならない。この間にパラソルをさすことは認める。

ベンチコーチは部員(出場資格を有する者、男女を問わない)・監督の他、ベンチコーチ登録名簿に記載されている者が行うことができる。

ベンチコーチのスマートウォッチ・スマートフォンの持ち込みは禁止とする。

ベンチコーチの交代は1試合中に3回までとする。また、交代の際は、抜ける人及び新しく入る人の両者が、SCU並びにコートレフェリーに伝えた後入ることができる。また、交代のタイミングはコーチングができるタイミングとする。

また、選手と同様に主審にそのプレーに対する判定に質疑することができるが、レフェリー(コートレフェリー)に対して、抗議することはできない。ジャッジの最終決定権はSCUにあり、それに対して質疑する権利はあるが、抗議する権利はない。

ベンチコーチに対するバイオレーション

1試合の累計でカウントする。(ex.D1とD2のバイオレーションは別とする)

1回目、2回目警告、3回目退場とする。退場した場合、その試合のベンチコーチは認められない。

ベンチコーチに対するコードバイオレーションが課される主な場合

- ・エンドチェンジ間(1ゲーム目終了時とタイブレーク時を除く)とセット間以外の時に、選手にコーチングをする。
- ・試合中に学連(学連のいない試合では質疑権所有者)、審判以外の人と話す、あるいは接触する。
- ・インプレー中にベンチから立ち上がる。
- ・登録されていない、部員、監督、部長以外の者がベンチコーチに入った場合。
- ・テニスシューズを着用していない場合。
- ・ベンチコーチのスマートウォッチ・スマートフォンを持ち込んだ場合。

(注)同時に2つ以上のバイオレーションが発覚した場合は、バイオレーションの数と同数のペナルティを受けることとなる。

4-2. 質疑権所有者

大学を代表して学連に質疑する権利を有する者。原則9/2のルール講習会に参加した者のみ権利を保持する。1大学につき男女各2名までとしている。

各主将・主務は試合前、および試合進行中に質疑権の所在を明らかにしておくこと。試合中に起きた法的問題については中立の立場で、公平に対処する。ジャッジ等の事実問題でもめた際にはコートに入ることはできない。

1. 学連が会場で運営を行っている場合(1部リーグ、全ての入れ替え戦)

- ・試合に関するルール上の質疑(選手のプレーや応援、ベンチコーチ等)

2. 学連による会場運営が行われていない場合

- ・試合中の法的問題に対する対処(事実問題に関しては審判が対処)(事実問題と法的問題の違いについてはルールブックP.142を参照)
- ・選手への物資の供給
- ・必要があれば、ベンチコーチ・応援のコード違反に対してペナルティを課す。その際は、必ず学連に電話で連絡すること。
- ・質疑権所有者が対処できない問題が起きたときは、学連担当者まで電話で質疑すること。

4-3.応援

選手のプレーを妨害する応援や、他人に不快感を与える応援については、主将・主務・質疑権所有者の提訴があった場合、コートレフェリー又はレフェリーの判断（不在の場合、電話で学連の判断）で応援（またはベンチコーチ）に対するコードバイオレーションを課す。

また、限度を明らかに超えていると判断した場合は、提訴がない場合もペナルティを課す場合がある。

OB・OG、その他の方の応援もその大学の応援としてみなすので、各大学が責任を持って説明を行うこと。道具（太鼓・メガホン・旗など）を使つての応援は一切禁止とする。

連呼については、ファーストゲーム後や、タイブレーク中のエンドチェンジは行わないこと（ダブルスの10ポイントタイブレーク前は良しとする）。各大学のコートの状況にもよるが、隣のコートの試合の支障にならないように行うこと。

応援や、ベンチコーチの方へ来たボールはインプレー中でなければとても良い。

応援に対するコードバイオレーション

ペナルティについては、以下の通りとする。

1回目：その試合の応援に対し警告

2回目：その試合の応援に対し拍手応援のみ（声出し禁止）

3回目：その試合での応援禁止

4回目以降：全試合での応援禁止

※これらはその対戦にのみ適応される。

以上の注意・警告を与えられてもなお良識を欠くと判断されるような応援が続く場合には、学連内で会議を行いさらに新たな罰則を科す可能性もある。

応援に対するコードバイオレーションが課される主な場合

- ・プレーが始まってからも応援を止めない。またはインプレー中に応援をする。
- ・応援が物資を渡すなど選手とベンチコーチと接触したとき。（学連がいない試合で質疑権所有者が接触するのは可）
- ・コーチングとみなされるような応援・仕草など

・ボーラー、SCUが試合中に自校の応援に参加した場合

・野次などの不正な応援に対するペナルティ

・コート外からの応援による妨害は応援に対するコードバイオレーションも取る

4-4.物資の供給

物資の供給は、必ずコートレフェリー(不在の場合:質疑権所有者)を介してコート内(選手、ベンチ、コーチ)に供給すること。TB等によりコートレフェリーが近くにいない場合、SCUに物資を供給することを伝えればコートレフェリーがいなくとも良い。

5.その他

5-1.結果報告用紙について

ホームページ掲載のエクセル形式の結果報告用紙に、その対戦のホーム校が当日20時までに以下のGoogle FormにてPDFで提出すること。

雨天での順延や雨天・日没等のサスペンドの際も結果報告をすること。

男子:[結果報告\(男子\) - Google フォーム](#)

女子:[結果報告\(女子\) - Google フォーム](#)